

NEWS RELEASE

報道資料
2010年4月5日
(日本時間)

アプライド マテリアルズ アナリストミーティングで成長プランの詳細を説明
2010年度の売上高予想を上方修正

アプライド マテリアルズ (Applied Materials, Inc., Nasdaq : AMAT、本社 : 米国カリフォルニア州サンタクララ、会長兼 CEO マイケル・スプリンター) は 3 月 30 日 (現地時間)、アナリスト向け説明会を開催し、今後数年間の売上と利益の成長プランを示しました。出席したアプライド マテリアルズ経営陣からは、半導体業界で今後数年にわたって見込まれる市場拡大を活かし全事業部門のシェアを拡大して経営を強化する、という企業目標についての説明が行われました。

アプライド マテリアルズは各事業部門で需要が伸びていることを受け、2010年度の売上高予想を前年度比 50%以上から同 60%以上に上方修正しました。現時点における各セグメント別の予想は以下のとおりです。

セグメント	2010年2月17日時点の 売上高予想	2010年3月30日時点の 売上高予想
シリコン	前年度比 100%以上	前年度比 120%以上
アプライド グローバル サービス	前年度比 30%	前年度比 35%以上
ディスプレイ	前年度比 30%	前年度比 50%以上
エナジー&エンバイロメンタルソリューションズ (EES)	前年度並み、 または±10%	前年度比 5%以上

会長兼 CEO マイケル・スプリンターは次のように述べています。「当社が未来に向けて構築した強固な経営モデルは、革新的な技術と収益力の高い事業に裏打ちされています。当社の事業には勢いがあり、当社が対象とする市場の多くは今後数年にわたる成長サイクルの初期段階に入っていると見られます。当社は、世界のエマージング市場におけるコンシューマーエレクトロニクス需要の増大、半導体の機能強化と普及拡大、コスト効率の高い再生可能エネルギーソリューションといった大きな市場ニーズのトレンドをとらえて、事業機会を实らせていきます」

CFO ジョージ・デイビスは、アプライド マテリアルズが事業効率を高める一方、新たな事業機会の創出を通じて対象市場を年間数十億ドル規模で拡大してきたことを説明しました。「最終製品の需要回復に合わせてお客様が生産を拡大できるよう支援するとともに、当社

のアジアでの業務を拡大してより効果的・効率的なサービスをお客様に提供するように努めています。各セグメントの事業も好転しつつあり、そこから生まれる収益とキャッシュフローは成長機会を支え、株主の皆様にも長期的な利益をもたらすでしょう」

シリコンシステムズグループのジェネラルマネージャー、ランディア・タッカーは、半導体業界が成長サイクルを迎える中で、アプライド マテリアルズが次世代半導体に対応する製品の開発状況について詳述しました。「アプライド マテリアルズの市場シェアは 2 年連続で増える見通しで、中でも検査装置とエッチング装置の伸びが顕著です。これからもお客様と緊密に協力して現在および将来のニーズに応える革新的な技術を提供していきます。当社はこの 6 カ月間に 6 つの新製品を発表しましたが、2010 年はこうした製品投入戦略をさらに加速する予定です。昨年 12 月にセミツール社を買収したことで、今後数年で 10 億ドル近い規模に成長すると見られている先進的なウェーハパッケージング分野でもリーダーシップを獲得しました。また、製品の開発と提供を世界規模で効率化することにより、利益率をさらに 10 ポイント高めることを目指しています」

アプライド グローバル サービス (AGS) のジェネラルマネージャー、チャーリー・パピスは、2009 年が半導体業界史上でも厳しい年だったなかで、AGS がキャッシュフローの黒字を達成できた要因として、その柔軟なビジネスモデルを挙げています。「最も大きな成長の可能性のある地域はアジアです。当社はビジネス面でも関係の面でもアジアのお客様との結びつきを強めており、今後数年間で約 10%の成長を目指しています」

アプライド マテリアルズの液晶フラットパネルディスプレイ事業は回復しつつあり、特に 2009 年に薄型テレビの売上高が 100%伸びた中国をはじめ、新興成長国市場における消費需要の伸びがこれを大きく支えています。ディスプレイグループのジェネラルマネージャー、ジム・ショルハマーは、液晶テレビ製造の材料コストを大幅に削減する PVD 装置 Pivot の投入により、アプライド マテリアルズの液晶ディスプレイ事業が業界全体を上回る伸びを見せていることを説明しました。「当社はさらに、最新の第 10 世代ディスプレイやさらに大画面の未来のディスプレイに移行するお客様に対するサポート準備も進めています。このほか、最新のタッチスクリーンや先進的な液晶テレビ技術、電子書籍リーダー等のアプリケーション需要増にも対応できる革新的な製品群をとり揃えています」

CTO 兼エネルギー&ディスプレイシステムズグループ ジェネラルマネージャーのマーク・ピントは、アプライド マテリアルズのエネルギー&エンバイロメンタルソリューションズ (EES) セグメントでの戦略と事業機会について次のように述べています。「この事業の成長ポテンシャルはきわめて大きく、当社は得意とする技術や製造イノベーションを駆使してこのビジネスチャンスをつかもうとしています。当社は 2008 年に太陽電池モジュール製

造装置のトップサプライヤーとなり、EES セグメントの 2009 年度の売上高は 11 億 5,000 万ドルでした。結晶シリコン分野でのシェア拡大に向け新しい製品やアプリケーションを開発し、また発電コストを引き下げる薄膜太陽電池製造ライン SunFab も優れた技術の進化と設置価格の低廉化により顧客の市場プレゼンスが大幅に躍進しました。急拡大を続ける中国市場で地盤を固めたほか、新たなエネルギー関連分野への投資も行い、利益率の改善も進んでいることから、2010 年度も成長が続くと予想しています」

将来予想に関する記述について

本プレスリリースには、当社の売上高と利益率の予想、戦略的ポジション、成長機会、対象市場、経営改善、現金の創出、導入戦略、製品、最終市場トレンド、業界見通しその他、将来の見通しに関する記述が含まれています。こうした記述は既知または未知のリスクや不確定要素に左右されるため、実際の結果はこうした記述が明示ないし暗示する帰結と大きく異なる場合があります。このようなリスクや不確定要素としては、①当社製品への需要（グローバルな経済・業界環境の変動、エレクトロニクス製品や半導体への需要、再生可能エネルギーに関する政府の政策とインセンティブ、顧客企業の新技術や投資のニーズほか、多くの要因の影響を受ける）、②当社が(i)広範な製品を開発・提供・サポートして既存市場を拡大し、新市場に進出する能力、(ii)コスト構造をタイムリーに事業環境に適合させる能力、(iii)サプライチェーンを含めたリソースや生産能力を計画・管理する能力、(iv)グローバルな業務と効率の向上に向けた各種イニシアチブを実施する能力、(v)買収した事業からシナジー効果を生み出し、取得した技術を商用化して成功させる能力、(vi)主要テクノロジーに関する知的財産権を取得ならびに保護する能力、(vii)主要社員を引き付け、その意欲を高め、定着させる能力、(viii)将来の業績や財務成績を正確に予測する能力（以上の能力は市場環境ならびに事業ニーズに関する複数の仮定に依存）、③その他、当社が証券取引委員会（SEC）に提出する書類に記載しているリスクなどがあります。将来の見通しに関する記述はすべて 2010 年 3 月 30 日現在の経営陣の推定、予測、仮定に基づくものです。アプライド マテリアルズは将来の見通しに関する記述を更新する義務を負っておりません。

アプライド マテリアルズは、半導体チップ、フラットパネル、太陽電池、フレキシブルエレクトロニクス、省エネガラスの製造におけるイノベティブな装置、サービスおよびソフトウェア製品を幅広く提供する Nanomanufacturing Technology™ ソリューションのグローバルリーダーです。アプライド マテリアルズは、人々のライフスタイルを向上させるナノマニュファクチャリングテクノロジーを提供します。

詳しい情報はホームページ：<http://www.amat.com> でもご覧いただけます。

このリリースは 3 月 30 日米国においてアプライド マテリアルズが行った英文プレスリリースをアプライド
マテリアルズ ジャパン株式会社が翻訳の上、発表するものです。

アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社(本社:東京都、代表取締役社長:渡辺徹)は 1979 年 10 月
に設立。大阪支店ほか 11 のサービスセンターを置き、日本の顧客へのサポート体制を整えています。

このリリースに関する詳しいお問い合わせは下記へ

投資家関係:

Applied Materials, Inc.

インベスターリレーションズ: 矢野 悦子 (Tel: +1-408-986-2646)

etsuko_joslen@amat.com

メディア関係:

アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社

社長室: 大橋 百合 (Tel: 03-6812-6801)

ホームページ: <http://www.amat.com>
